



桜井励子
看護師長

に、互いが納得して方針を決める重要性を周知するため、看護師長らによるプロ

やまなし
医療最前線
看護のいま
県立中央病院から

〈305〉

山梨県立中央病院は、患者の治療方針や看護ケアの意思決定を支える取り組みを強化している。医療者と患者側の双方の意見を基

シエクトチームを設けている。

患者の意思決定支援は、医師だけでなく、看護師を

含めた多職種連携が重要だという。チームのリーダーを務める桜井励子看護師

も把握できる立場にあるという。

医療ケアチームが患者の現状と治療方針について説明し、同意を取り付けるだけでは、患者の価値観に配慮したことはならないと

い」などさまざま。看護師は患者の気持ちを受け止めつつ、内容に応じてできる範囲を見極める。ときには代替手段も提案することで患者の望みに寄り添うとい

治療方針決定へ支援強化

価値観配慮最良の選択に

長は、「看護師は患者が清潔にしているか、きちんと食べているかなどを観察し、会話の中では趣味を聞くこともある」と説明。患者がどのような日常生活を選びたいか知る機会は多く、身体症状だけでなく、生活の中で育まれた価値観

という。病院では患者や家族の思いに耳を傾け、密にやり取りした上で、治療の選択肢を提示することを心掛けています。

例えば心臓に疾患を抱える患者の場合、退院後の要する患者の場合、退院後の要望は「登山がしたい」「野球がしたい」「孫と遊びた

プロジェクトチームは、医学的に最善な判断や本人・家族の価値判断などを踏まえた話し合いを求めるマニュアルを作成。話し合いの内容については電子カルテに記録し、患者に関わる全職員が共有できるようにしている。従来に比べてよ

患者の意思決定を支えるプロセス

※山梨県立中央病院による

